

【会員だより】

ご縁の地“出雲”から

島根大学医学部附属病院 放射線部 宮原善徳(短3回生)

学生時代はアルバイト、麻雀、バックパッカー放浪に明け暮れる日々でした。“真面目に”楽しく学生生活を送っていた反面、卒業も国家試験も危うい成績下位層に属していました。当時のことは今でも時々思い出されますが、一番厄介な教科の試験に寝坊して受けられなかったこと、国家試験直前に“滑るだけ滑ろう”と数人でスケートを楽しんだ記憶は今でも思い出されます。“ご縁”もあって繋がりを持った仲間は“一生の宝”と思います。

卒業を前にしてやっと就職先が決まり、園部を離れ島根県松江市内の病院に入職しました。そして半年後“ご縁”もあって島根大学病院(出雲市)に異動しました。松江でも出雲でも、先輩方にはとても良くしていただき、麻雀、ゴルフ、野球等々、ワークライフバランスも充実した生活でした。当時の技師室には、多くの京都(島津学園)の先輩方が在籍されていたことや、医師との距離も非常に近く、学術面でも最高の環境でしたので、先輩方と同様に常に向上心を持って診療と研究活動に打ち込める日々でした。

多くの検査部門を経験する中でも放射線治療部門では、特に熱心に教えていただきました。また、業務に携わる多くの方々の“ご縁”もあり、研究活動にも没頭できたと思います。特に当時の放射線治療科教授との出会いは人生のターニングポイントであったと思います。沢山のことを教えていただき、多くの国際学会にも参加することができました。学生時代にホームステイで会得した少しばかりの語学力は多少なりとも役に立ちました。

また、落ちこぼれでしたが大学院進学も勧めていただきました。先生方や先輩方には感謝しかありません。

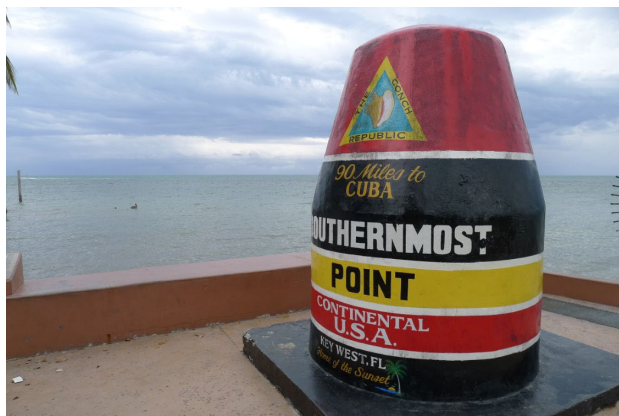
～ 最後に ～

最近、ある講演会で下記のことを聞き共感しましたので紹介します。

“チャンスは「待つ」のではなく「掴みに」いくもの”

“求められるは「Uniqueness な人材”

未来ある若手の皆様には、伝統ある島津学園の卒業生として、“診療業務”に“学術活動”に“遊び”に邁進していただけたらと思います。



放浪の旅から～ USA 最南端 Southernmost Point (Key West) ～

以上

* 通巻 249 号 2023 年 10 月 10 日発行(2023-No.4)より